

1 学校として目指す授業

児童がすすんで学び、友達や地域、教材と対話的に学ぶことを通して、自分の学びを創る授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校 6 年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問調査の分析
・国語では、全領域で国の平均を上回っている。特に、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「読むこと」の領域が大きく全国平均を上回っており、引き続き各教科で対話的な学びの視点からの授業改善を図り、指導していく。 ・算数でも、全領域で全国の平均を上回っている。引き続き図や表、グラフを使った思考や間違いの分析・再挑戦の機会を設けながら学力を育んでいく必要がある。	・多くの児童が計画的かつ主体的に学習し、学習に対する粘り強さや集中力、内発的な学習意欲が高い。 ・学校の授業時間以外の勉強時間は「2 時間以上」とする児童が 2 1 %、「3 0 分未満」や「全くしない」と回答した児童も 2 0 %おり、二極化が進んでいるといえる。引き続き、個々の児童に応じた支援や声かけ、具体的な学習方法の提案をする必要がある。

(2) 都「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（小学校 4 ～ 6 年生）

・授業内容については、各教科とも約9割以上の児童が「分かる」と回答しており、学習内容の理解は概ね良好である。一方で、学習が「得意」と感じる割合は国語を中心にやや低く、自信を十分にもてていない児童も見られる。学習の成果や成長を実感できる振り返りを充実させ、自己肯定感を高める授業改善が必要である。 ・「分かることややできることが楽しい」「将来に役立つ」「考える力を付けたい」といった理由で学習する児童が多く、内発的な学習意欲が育っている。一方、「人に負けたくない」「ほめられたい」といった外発的な動機は低い。今後も学ぶ意義を実感できる課題設定や探究的な学習を通して、主体的な学びをさらに促進していく。 ・難しい課題にも最後まで取り組む姿勢や、分からなくても学習を続けようとする意識は高い。一方、自分の考えを積極的に伝えたり、相手に質問して考えを深めたりする項目は比較的低い結果であった。話し合いや協働学習、ICTを活用した意見交流を充実させ、対話を通して学びを深める力を育成していく必要がある。
--

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・東京都統一体力テストにおいて、体育の授業を楽しんでいる児童の割合は、どの学年においても90％以上であり、授業への肯定的な受け止めが見られた。また「体育の授業でできるようになったきっかけ」として、「先生や友達のまねをした」や「友達に教えてもらった」と回答した児童の割合が多く、他者と関わりながら学ぶことが大きな役割を果たしていることがわかる。一方、「運動やスポーツが好き」と回答した割合は、学年が上がるにつれて低下する傾向が見られた。授業においてルールや場の工夫、個に応じたためての設定などを行い、児童が成功体験を積みこで意欲の低下を防いでいく必要がある。

3 児童の学力・学習状況等の課題

① 授業内容は理解できていても「得意」と自信を持っていない児童が多く、学びの成果や成長を実感し自己有用感を高める指導が課題である。
② 自分の考えを積極的に伝えたり、質問して考えを深めたりする対話的な学びが相対的に弱く、対話を通して考えを深める力の育成が課題である。
③ 見通しをもって学習に取り組んだり、学び方を振り返って工夫したりする、メタ認知的な学習方略が身に付いていない児童が多く、学び方そのものを指導していく必要がある。

4 学校全体の授業改善の視点

① できた・分かったを児童自身が実感できる振り返りの工夫
② 児童が思わず考えたくなる、話し合いたくなる対話指導の工夫
③ 学び方を工夫したり、学び方を振り返ったりできる学習過程の工夫

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3 学期以降の指導に生かす。
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価		
低学年	平仮名やカタカナ、漢字が文章の中で使えるように、作文等の指導を通して、基礎基本の定着を図る。音読やペアでの話し合い、言葉に着目する活動を取り入れ、自分の思いや考えを言葉にして伝える機会を充実させる。友達の話聞きながら、自分の考えを広げたり深めたりする力を育成する。				授業の導入等を活用して基本的な計算方法を身に付ける。数学的活動を通して、見方、考え方を働かせ、表現する場面を設定する。（その際に問題文を図示できる場面を計画する。）GIGA端末を効果的に活用する。計算ドリルや授業で間違いの多い問題を取り上げ理解を深められるようにする。				身近な人やもの、自然と実際に関わる活動を取り入れ、見付けたことや気付いたことを、言葉や絵、動作など多様な方法で表現する場を充実させる。また友達との交流を通して、気持ちを広げたり深めたりする力を育成する。		歌唱・器楽・鑑賞分野を通して、少人数で発表したり、音楽を形作っている要素に着目して聴いたり表現したりする活動を取り入れる。また、音楽のよさや面白さなど感じ取ったことを、歌声や体の動き、楽器の演奏、言葉などで表現する楽しさを味わわせる。		制作活動や鑑賞を通して、造形的な視点で自他の表現を共有する機会や認め合う活動を増やすことで、課題解決に繋がる発想力や技能を育成するとともに、成果を実感し自己有用感が高められるようにする。				運動遊びの楽しさを十分に味わえるよう、場や用具を工夫し、「できた」を実感できる授業づくりを進める。また、教師や友達の動きをまねしたり、見せ合ったりする活動を取り入れることで、意欲の向上と対話的な学びの充実を図る。				教材の登場人物の心情や問題場面を考えることを促すことができるよう、発問を工夫する。教材提示の仕方を工夫（範読、紙芝居等）し、児童が教材の世界に入り込めるようにする。			
中学年	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にしたり、表現の仕方を工夫したりして、ペアや小グループで交流することができるようにする。また、図書や空き時間を活用し、読書習慣の定着を図る。		資料から気付いたことを共有したり、考えを広げ深めたりするために、対話的活動を意図的に増やす。社会的事象を自分事とするために、まとめの段階では、自分の考えをいろいろな考えと比較しながらつくることを重視する。		文章問題等の立式の際、事象を図化したり数直線で表したりと考えを説明する場面を意図的に設ける。東京ベーシックドリルを活用し、既習事項の定着を図る。授業の振り返りをノートに書く。		経験などを思い出しながら根拠を明確にして予想し、授業と関連付けられるよう話し合い活動を効果的に取り入れる。理解を深めるために、考察をする時間では結果から分かったことや考えたことを書く時間と共有する時間を十分に取る。				歌唱分野では、姿勢・呼吸・口の開け方を意識し、曲想に合う自然な声で歌えるようにする。また鑑賞分野では、音楽を聴いて感じ取ったことを、音楽の特徴と結び付けて表現できるようにする。		制作活動や鑑賞を通して、造形的な視点で自他の表現を共有する機会を増やし、課題解決に繋がる発想力や技能を育成するとともに、成果を実感し自己有用感が高められるようにする。また、対話型鑑賞法を用いて、伝え合う楽しさを育てる。				自分に合っためあてを設定し、運動の楽しさを味わえるようにする。また、ペアやグループで動きを見合い、よい点や改善点を伝え合う活動を通して、学び合う力を育てる。				内容に応じてワークシートやGIGA端末を活用し、他者と対話したり協働したりしながら、さらに主体的に自分の考えを深める場を設定する。また、自己を見つける時間を十分に設ける。			
高学年	主張と根拠を明確にし、図表を効果的に用いて自分の考えを説得力をもって書けるようにする。またGIGA端末を活用し、互いの文章を読み合い、表現を工夫したり、吟味したりする中で友達の文章のよさを見つけ、自分の表現を深められるよう、協働的な学習の時間を設定する。		問題解決的な学習過程において、資料提示を工夫しながら児童の気付きや疑問、予想から問いを見いだして学習問題をつくり、主体的な学びを促す。調べたことをもとに考える時間の際に、自分の考えをもち、対話的な活動を通して考えを深められるようにする。		東京ベーシックドリルを活用し、既習事項の定着を図る。単元ごとに基礎基本の定着を図る時間を確保する。自分の考えと友達の考えを比較したり、交流したりする場面を実態に応じて設定し、幅広い考え方をできるようにする。		児童自ら問題を発想できるような事象を導入して提示し、その問題を解決していく授業展開を取り入れる。また、自分の意見をしっかりと述べた上で、予想や考察を交流させることで、多様な考えを基に結論を導き出せるようにする。その他にも、根拠がある予想をもたせうために、その単元に関係する既習事項を導入の時間しっかりと振り返る場面を設定し、具体的な予想をたてられるようにする。				歌唱分野では、主旋律・副旋律の役割を意識し、相手の声を聴いて音程と声量を調整できるようにする。器楽分野では、友達の音を聴き、速さや強弱を合わせて、曲想に合う合奏をつくるようにする。		制作活動や鑑賞を通して、造形的な視点で自他の表現を共有する機会を増やし、課題解決に繋がる発想力や技能を育成するとともに、成果を実感し自己有用感が高められるようにする。また、対話型鑑賞法を用いて、伝え合う楽しさを育て、自身の考えを深める機会を増やす。		ミシンや裁縫道具、調理器具などを活用する実践活動を積極的に取り入れ、生活に必要な道具の扱い方に慣れ、技能の向上を図る。日常生活と結びつけながら学習を進めていくことで、必要感をもって学習に取り組むことができるようにする。				技能差に配慮した課題設定や場の工夫により、成功体験を積み重ねられるようにすることで運動の楽しさや喜びを味わえるようにする。互いに助言しながら学ぶ場を充実させる。		目的をもって自分の考えや思いを伝える機会を増やし、相手意識をもった言語活動を充実させる。音声の聞き取りやパワーポイントを使ったスピーチなど課題に対してICTを有効活用していく。		内容に応じてGIGA端末を活用し、友達の考えと比べながら自分の考えを深める場面を意図的に設ける。また、自己を見つける時間を十分に確保する。	